

浜嶋です。

おはようございます。

スカウトから受験合格の連絡を頂きました。まだ、そんな時期でないと思っていたので突然のことで驚き、またスカウトから直接喜びの声を聞いたことを大変うれしく思いました。何度も「よかった、よかった、おめでとう」と祝福しながら、連絡をしてもらったことのうれしさをかみしめていました。「お母さんにもよろしく」と言って電話を切ったものの、電話を掛けなおしてお母さんにも何度も「よかった。うれしい」と伝えました。団委員長立場でスカウトから直接連絡を頂けるなんて、本当にうれしいものです。

「ああ、コミュニケーションって、とても大切だな」と思いました。多くのスカウトたちと分け隔てることなく気持を通わせることを心がけていたことの結果かなと思います。同時にすべてのスカウトとできているかと思うと、あまり声を掛けていないスカウトがいることを反省しています。また、スカウトの近況を理解しながら、会話の話題として取り上げるようなコミュニケーションをしていると心を通わせることができるのだと思います。簡単にいうとスカウトの成長を気遣う気持ちをさりげなく伝えたり、具体的に励ますことだと思います。

スカウトがC S隊やB S隊へ上進すると顔を合わせるのは、団行事のときになります。この年代になれば、自覚ができるようになり、会話がとても重要です。団行事では保護者とのコミュニケーションを優先しているので、スカウトに対しては、出くわしたスカウトしか声をかけられません。また、踏み込んだ話はできません。積極的に探しまわって声を掛けることは、保護者に対してはしますが、スカウトは難しくなります。団会議などで隊長から、スカウトの様子を聞いていると、スカウトに話しかける話題が明確になり、声掛けがしやすくなります。団会議における大切な情報共有だと思います。今回の受験合格も団会議で隊長から報告されました。

「2団は、家族のような団」だと菊章の地区面談で伊藤乃々香隊員が言いました。隊員として、スカウトだけでなく指導者や団委員ともコミュニケーションの機会が多くあったのだらうと思います。私は、世界ジャンボリーのホームステイをしてもらったことで彼女の一端を知り、会話も弾んだ機会がありました。スカウトは様々な活動にチャレンジし、そのときに多くの指導者とのコミュニケーションが発生すると思います。

「何かにチャレンジすること」で人と人とのつながりが生まれるのだらうと思います。

だから、何かをすることが大切ですね。指導者は、スカウトに何か生まれる支援をすることでつながりを深めることになるのでしょう。

指導者は、「すべてはスカウトのために」を合言葉で活動しています。スカウトのために

プログラムを実施するのは当たり前ですが、個別のスカウトに対して、生涯付き合っていくぐらいのつながりを作っていく気持がいるのではないかと思います。

息子が吹田19団のカブ隊で一緒だった同級生とは、私がデングッドをしていたときのスカウトですが、熊本に引っ越しをしても17年間年賀状のやり取りをしています。一頃手旗記号で送ったことがありました。2団でも、3人がそれぞれ年賀状を送ってくれる家族がいます。とても大切なつながりだと思います。

他人でも心がつながっているから家族のような気持になれるのではないのでしょうか。せつかくこの2団に所属するのですから、全員が家族のようなつながりを持てる実のある活動をしたいです。家族の絆はいつまでも続きます。場所が離れても、団を離れても繋がるものです。そうなることは、人生の喜びではないのでしょうか。目の前の活動について、スカウトとのコミュニケーションを大事にした取り組みがいいのかなと思います。